

○消防団検討委員会・要綱改正案に対する意見集約について（令和5年3月29日書面による意見照会）

番号	氏名	種別	意見等	修正案
1	小掠 啓司	表紙・目次・ 提言書 P7	提言書のタイトルの「地域ぐるみによる消防団活性化に向けての提言」の「・・・ぐるみによる・・・」という言い方が何となく気になる。どこがどうおかしいのかと言われてもよくわからないし、こうなおした方がという案も思いつかないし・・・。	より意図が伝わる言い回しに修正する。「地域ぐるみによる消防団活性化に向けての提言」を「地域ぐるみで取り組む消防団活性化に向けての提言」と修正する。
2		提言書 P7・P11	【①団員の活動を支援する体制づくり】の中の「（２）事業所や団体との連携した協力体制づくり」は「（２）事業所や他団体との連携・協力体制づくり」の方がいいのでは。もしくは「（２）事業所や他団体との連携による協力体制づくり」いっそ「（２）事業所や他団体との協力体制づくり」でも。	「団体」は具体的には日赤奉仕団のことであり、事業所とは一線を画すものとして、「他団体」と修正する。また「連携」という表現も大切だと思われるので、修正文としては「（２）事業所や団体との連携した協力体制づくり」を「（２）事業所や他団体との連携による協力体制づくり」と修正する。
3		提言書 P11	「（２）事業所や団体との連携した協力体制づくり」の「①炊き出しの協力体制の確立」について、原文だと別団体である日赤奉仕団に協力の検討をするように求めているようにとれる。ここは「・・・日赤奉仕団とも改めて・・・」か「・・・日赤奉仕団にも改めて協力の可能性を確認する」がいいのでは？	原文は誤解を与えずシンプルに意図が伝わるよう修正する。修正文としては「また、これまで炊き出しの役割を担っていた日赤奉仕団も改めて協力ができるよう検討されたい。」を「また、これまで炊き出しの役割を担っていた日赤奉仕団にも改めて協力の可能性を確認する。」と修正する。
4		提言書 P11	「（２）事業所や団体との連携した協力体制づくり」「④事業所に積極的な協力を促すための支援制度の充実」内の「事業所としては、従業員を消防団に所属させることに負担を感じている。」を「事業所は従業員を消防団に所属させることに負担を感じている」もしくは「事業所にとっては従業員を消防団に所属させることは負担となる」に。そのあとの「事業所が積極的に協力するための支援制度の充実を図ることや、既存の「消防団協力事業所」制度を積極的に活用できるよう周知されたい。」を「その負担を少しでも軽減するための支援制度があることを広く周知し、又、その更なる充実を図る。」では？	原文はシンプルに意図が伝わるよう修正する。修正文としては「事業所としては、従業員を消防団に所属させることに負担を感じている。事業所が積極的に協力するための支援制度の充実を図ることや、既存の「消防団協力事業所」制度を積極的に活用できるよう周知されたい。」を「事業所は従業員を消防団に所属させることに負担を感じている。その負担を少しでも軽減するための支援制度があることを広く周知し、又、その更なる充実を図る。」と修正する。
5	恩澤 克美	提言書	<p>団員数減少と共に消防団員意識が著しく低下しています。 自分の予定を組む時に「その日は消防だから」から「自分用事優先」確かに消防団活動より大事な用事はありますが、『その日にしなければいけない用事なの？』消防団活動を軽視する団員が増えていて感じています。基本的に「自己都合優先」が強く団員意識が薄いと思います。上手く表現出来ませんが時代の風潮でしょうか、団員数を増やす事が最重要ではありますが同時に【消防団員の自意識の向上】が課題になってくると思います。町民の為に有るわけですが先ずは自分の為でもある事を考えてほしいです。「アレ・コレは嫌だからやめる」「負担だから」確かに負担ではありますが、消火・災害救助などの活動は無知では活動機能低下及び二次災害の危険性が上がる事は確実です。現場で落ち着いて円滑安全作業が出来てこそ自分の安全確保につながる意味も理解してほしいと思います。いかなる活動にしてもある程度の経験と知識は必要で、集団活動においてチームワークがとれて一つになる事が重要です。連絡系統・指揮系統・第一線活動員等は訓練知識が有ってからこそ現場で安全確実な活動が出来ます。 余談ですが技術大会においては一分団の大まかな取り組み考え方ではありますが 1、消火活動の流れの把握 2、縦繋がりが理解（自分の立場での行動内容、今の自分は何をすべきか） 3、安全性の確認 4、結果は後からついてくる（上記が完璧なら結果も完璧になってくる） 決して優勝を狙ってなかったわけでもありませんし大会を軽視していたわけでもありません。訓練回数を減らすのであればその分濃い訓練にする必要があります。不慣れな団員を統率するには各幹部の十分な教育と自信が必要になります。指揮・命令系統の混乱は現場活動で最悪の状況となります。 災害発生数が少ない事は大いに良い事ですがスキル低下と危険危機意識を忘れてしまっている団員が多くなってきているのではないのでしょうか。残念なことに100回の訓練より1回の現場で学ぶ事が多いのが事実です。入団から退団まで一度も現場に「出なかった」「出られなかった」という団員も増加していると思います。災害出動等の後には十分反省検討会等を行い全団員に情報共有し現場に出てない団員にも現場状況を周知し、次回の出動に生かして作業に就いてほしいと思います。身体を動かす訓練も大切ですが考察する訓練も役に立つと考えております。過去に数人の現場経験の少ない後輩に言った事がありますが 問 あなたは【団員】or【幹部】です 今自宅から【出火】or【土砂災害】発生しました。 あなたは【自宅】or【自宅以外】に居ます。 どのような行動を【しますか】or【しなくては行けませんか】 水利・放水経路・配置はどうすべきか必要人員・機材は何か等誰でも何所でも何時でも何回も実施できる訓練のイメージトレーニングです。 消防団員としての意識が少しは上がるのでは・・・？</p>	<p>いただいたご意見は大変重要な要素であるため提言に反映する。 提言書のP15【④地域で必要とされる役割づくり】の【提案内容】にある【（２）大会のための訓練ではなく地域の安全と安心を守るための訓練の展開】を【（２）大会のための訓練ではなく地域の安全と安心を守る消防団員としての意識の向上を目指した訓練の展開】と修正し、当該の項目に以下のとおり追加する。</p> <p>・訓練などで培われる経験や知識は現場活動における自身の安全確保につながることを十分に理解した上で、やらされている訓練ではなく主体的に取り組める訓練を行う。（現場活動においての流れの把握・役割の理解・安全性の確認などを明確にした訓練など） ・幹部が団員を安全に統率できるように幹部を対象とした教養などを含む訓練の充実を図る。 ・いつ起こるか分からない災害に対して備えるために、実技訓練だけではなく、発災を想定したイメージトレーニングや災害後の十分な検証会とその情報共有などの充実を図る。</p>

6	佐々木 哲也 (副団長)	提言書 P7	提言書のスローガン『地域に根差した消防団を活性化し消防団とともに「安全・安心のまち」をつくる』とあるが、「消防団とともに」という言い方だと、地域のスローガンになるのだろうか？検討委員会が、行政や町民は消防団とともに協力してやっていきたいと思いますという感覚を受けるがそれでよいのだろうか？それでよければそれで良いが、例えば「消防団とともに」を「地域ぐるみで」や「地域一丸となって」などに変えると行政や町民も消防団も含め共通のスローガンになるような気がする。町が任命した検討委員会は第三者機関のようなものなのだろうか？町民側の立場だろうか？最初の印象では消防団から町へのお願い・提案なのかと思っていたので、そうだとすると「消防団とともに」という言い方は押し付けがましい気がした。誰目線のスローガンになるかで決まるとは思うが、スローガンは必要なのかな？とも思ったりもする。明らかに町や町民側で掲げたスローガンなら「消防団とともに」でいいと思うが、実質は消防団関係者の組織なので、どうしても押し付けがましく感じてしまうかもしれない。	⇒	検討委員会は有識者も含まれていることなどからも必ずしも消防団側の立場の組織ではなく、第三者的な立場から消防団をどう活性化していくかを目的に設置された機関である。よって、提言は行政に向けて提言しているという意味合いがあり、スローガンの「消防団とともに」という表現は、第三者的な立場から行政と地域などに対しても“消防団を支えてもらいながら消防団と協力して（安全・安心のまちをつくる）”という趣旨も込められている。よって、特に修正はせずにこのままとしたい。
7		提言書 P4・P10・ P14	提言書の中に何箇所か「本団」という言葉が使われているが、分からない人も多いので、他の言葉がいいのではないか？「役員」や「執行部」など。	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P4中段下の「本団」は本団役員会において本団役員と共有したという意味なので「役員」と修正する。</li> <li>・P10【⑧嘱託救護班の創設】内の「本団」は分団と区別した表現で用いているため「本部」と修正する。</li> <li>・P14【現状及び課題】内の「本団」は本団役員会内において議論されているという意味なので「役員会」と修正する。</li> </ul>
8		要綱改正案 (新旧対照表) P3	新旧対照表の「6 活動内容 (2) 救護嘱託員」の「ウ 新入団員については、春季訓練・辞令交付式へ出席する。」は現行の女性嘱託員の名残ではないか？嘱託員という括りになればこちらに明記しなくてもよいのではないか？	⇒	女性に限らず、OBではない新入団員は皆さんに紹介するという意味合いで辞令交付に出ただけのようにもお願いできたらよいのではないか？「出席する」では強制的な意味合いが強いので「出席できる」という表現に修正し、「(1) 一般嘱託員」にも同様にこの項目を追加する。

○消防団検討委員会・要綱改正案に対する意見集約について（令和5年4月21日書面による意見再照会）

番号	氏名	種別	意見等	修正案
1	小掠 啓司	表紙・目次・ 提言書 P7	佐々木副団長の【本団】の語に対する指摘はもっともですが、P4中段下の場合、【役員】の語が唐突に出てきて文脈上も何の役員か分かりづらいので何か工夫されては？【消防団本団役員】では冗長？	⇒ <ul style="list-style-type: none"> <li>・P4中段下の「役員」は分かりやすく「消防団本団役員」と修正する。</li> <li>・P14【現状及び課題】内の「役員会」は「消防団本団役員会」と修正する。</li> </ul>